

すわみつえ通信

No.97 2019年 11月4日(月)

日本共産党鴻巣市会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

消費税が10%に引き上げられてから1か月が経ちました。10%のレシートを見て上がったことを実感する日々です。先日、個人商店でお年寄りが「カードで払うと安くなるの?」とお店のポイントカードを見せて尋ねている場面に出会いました。店員さんがクレジット機能が付いていないため、支払いには使えないことを丁寧に説明していました。買った店や現金かキャッシュレス決済かで税率が違いため、消費者にもお店の側にも混乱を招いています。

大もつけをしている大企業や富裕層に、その経済力に見合った税金を負担してもらうことで、消費税の引き下げや国民生活を支えるさまざまな政策を実現する財源を十分つくりだせます。



(左) すわみつえ市議 (右) 星野みつお市議

消費税5%に引き下げよ!
桶川市議・星野みつお氏と訴え

1年に1度行われる第1分団から第19分団の鴻巣市消防団の特別点検が11月3日(日)に埼玉県消防学校で行われました。服装や機械器具の点検に続き、放水訓練も行いました。台風19号の時には消防団の皆さんも避難所で避難支援をしたり、待機して備えたりしたそうです。日頃の点検や訓練があつてこそ緊急時に対応できるのだと感じました。

「消防団特別点検」が行われました

11月10日(日)告示の桶川市議選で2期目をめざす、日本共産党の星野みつお市議と「消費税は5%」の宣伝をしました。



【写真右】放水訓練
埼玉県消防学校
11月3日



毎週の「すわみつえ通信」と「議会報告版」このす民報を掲載している、すわみつえ公式ホームページを見てください。嬉しそうです。もつと充実したものにしていききたいと思います。

すわみつえ公式ホームページのアクセス数が増えています!

公民館・児童センターの活動を発表する箕田公民館祭りに伺いました。晴天に恵まれ、多くの方が中庭で食事したり催し物を観たりと楽しんでおられました。豚汁と赤飯に舌鼓を打ち、フラダンスの発表に気持ちは軽やかになりました。



フラダンスの発表



すわみつえ市議

箕田公民館祭りに参加

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

消費税減税・廃止へ

疑問に答えます

⑥

消費税を減税するかどうかは、政権の姿勢の問題です。

安倍首相は、日本共産党の志位和夫委員長が衆院本会議の代表質問で求めた「消費税の5%への減税」要求に対し、「減税はまったく考えていない」と拒否しました。

しかし、消費税5%減税の財源は、これまでみたように大企業と富裕層に応分の負担を

求め、無駄遣いを一掃することなどを中心にすえた税財政改革を行えば賄えます。

この立場から、野党が「5%への減税」を掲げて政権交代を実現すれば、税率引き下げは可能です。

野党は7月の参院選の共通政策で「消費税10%への引き上げ中止を公約にたたかい

ました。10%増税が強化されたことで、共通

本当に5%への引き下げができるの？

共闘の力で道を開く

政策を土台に消費税減税に向けた野党の協議を開始し、共闘のさらなる発展が必要です。日本共産党は5%減税が野党の共通政策となるよう努力しています。

いま多くの団体が5%への減税を求めており、日本共産党の提案はその願いとも合致します。政党内では、税制に対する考えの違いはあっても、消費税減税・廃止を求める政党も出てきており、消費税減税を求める政党内・団体・個人が力を合わせて、安倍政権を追い詰めていけば、道は開けます。

(おわり)

雪山賛歌の町で支援の声

「土砂を取り除いてみないと再建できるかわからない」。

「雪山賛歌」がつづられた群馬県鹿沼温泉。台風19号の被害に、老舗旅館「鹿沼館」のおかみは、玄関も、ロビーも、お風呂場も、すべて土砂に埋まった様子を指しました。

「真田屋」は地下の機械室が水没。経営者は、旅館、観光の再建へ、「財政的支援がほしい」と強く訴えられました。



しんぶん赤旗

11月2日付

駆けある記

豪雨災害で鬼怒川が決壊し、茨城県常総市では3分の1が浸水しましたが、収穫後のコメや農機具への国の支援、半壊家屋世帯に25万円の茨城県独自の支援策をつくらせました。5年前の大雪被害では、ヒールハウス再建で国と県に9割負担させました。

関東・東北豪雨災害は

東 北 関 東
補 例 院 比

梅村 さえこ

な被害です。被災者の皆さんの要望を、地方議員団と力をあわせ、国、県、自治体へ届け、実現に全力をあげています。

これまでも声と運動で制度を実現してきました。4年前の関東・東北

潮流

ほんとに腹が立つてしょうがない。地方に住む人や貧乏人は諦めろというのか。萩生田文科相の暴言に対し、高校生や保護者たちから怒りのツイートが続々と発信されています▼「自分の身の丈に合わせて勝負してほしい」「人生のうち、自分の志で1回や2回は故郷から出て試験を受ける。そういう緊張感も大事」。大学入試の民間英語試験導入についてテレビ番組で口にした。

批判を受けている教育格差に背を向けたものです▼地域や経済的な格差、試験の公正性をはじめとする制度全体のあやふやさ。受験の現場から数々の問題点が指摘され、野党は共同で延期法案を出しました。そんな深刻な状況のなかでの発言です▼ひとしく教育を受ける権利を保障する憲法。最もそれを守るべき立場にある人物が平気で機会の平等をなげす

て、将来がかわる受験生を冷たくきりすてる。それこそ、安倍首相の任命責任が問われます▼それにしても、一方的な価値観によって人びとを選別する政権の体質はいつころに変わらう。あの麻生財務相はまたも。自身の派閥議員の地盤を「品の良い所」と紹介しながら「川崎や北九州、福岡の(田川とかいうところじゃなくて)と、住む人をおとしめました▼身の丈とは分相応を意味します。彼らに

は本人の努力や、きびしい環境に置かれている若者たちの痛みはとどきません。無理もない。そういう首相のもとにいるのですから。こんどは私たちの番です。「こんな人たちに負けるわけにはいかない」

(しんぶん赤旗10月27日付)

しんぶん赤旗
11月3日付



「今までは声をあげても何も変わらないと思っていただけで、声をあげる人がいるから変わるんだと思えた」。大学入試共通テストへの英語民間試験の導入が延期となったことを受け、国会を訪れた高校1年の女子生徒が喜びを語りました。この問題で、延期決

定までの道のりを先導したのは当事者である高校生の声と運動でした。

若者の間で「どうせ変わらない」「権力者は寄り添ってくれない」といった「政治不信」が広がる中、この問題を機に、全国の多くの高校生が立ちあがりました。国会前での抗議や野

英語民間試験延期 高校生が政治を動かす

党合同ヒアリングで現場の声を強く訴えたり、1週間で4万を超えるネット署名を集めるなど、高校生の勇気ある行動は、国会での追及や延期法案提出などの野党の動きの原動力となりました。

一貫して運動に参加してきた高校2年の男子生徒は「これまで声をあげてきたことが初めて実った経験をした。おかしいと声をあげたことに応援・賛同してくださる方が増えて、こうして改善を止める第一歩を踏みだせた」と述べました。

この運動は、若者たちの中に政治は自分たちのためにあるという意識を芽生えさせました。声をあげ続ければ必ず政治は変えられる。そう語る高校生に心を揺さぶられました。(み)

